

OISCA

—人と育む、地球といきる—



〔TOPIC〕

災害大国ニッポンで
命を守る防災を学ぶ

MARCH | 3
2023



刑務所で農業研修！ ～出所後の自立を促し、再犯も防ぐ～



4 質の高い教育を
みんなに
パプアニューギニアの首都ポート
モレスビーから飛行機と車を乗り継
ぎ3時間弱。オイスカ・ラバウルエ
コテック研修センター（以下、センター）では、
稲作の指導や普及に力を入れ、今年も約80名の
研修生を受け入れる予定です。

センターの畑や水田で研修生を対象にした農
業研修を実施するほか、スタッフが招かれて外
部で農業を指導する機会もあり、なかでも特徴
的なのはケラバット刑務所の服役者への取り組
みです。雇用機会が少ない（7～8割は未雇用）
同地では、服役者が出所後に収入を得て自立し
た生活を送ることは難しく、再び犯罪に手を染
めて刑務所に戻ってくることも珍しくありませ

ん。そうした背景から、服役者の出所後の自立
を目指した農作物栽培の研修プログラムを実施
し、服役者や彼らを指導するスタッフ（看守）
を対象に、技術指導を行っています。

SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」に
は、「2030年までに、技術的・職業的スキルな
ど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び
起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を
大幅に増加させる」とのターゲットがあります。
服役者が研修を受けることで、出所後に差別を
受けることなく、ふるさとで農業に従事し、地
域の発展に寄与する人材となることを願い、ま
た再犯防止の一助となれるように取り組みを続
けています。



先人たちの自然観

生かされて 生きるや今日の このいのち
天地の恩 かぎりなき恩

これは初詣で訪れた大國魂神社（東京・府中市）の控室に掲げられていた平澤興先生（医学者。京都大学総長などを歴任）の歌です。

私たち日本人は古来より、自分一人の力で生きているのではなく、あらゆるもの（自然であり、社会であり）のお陰で生かされている、と考えてきました。

日常生活で何気なく口にする「お陰様で」という言葉。この言葉こそが「生かされて生きる」という、先人たちから私たちに伝えられた日本人の人生観、社会観であったのではないだろうか。そしてその延長で人びとは、何事にも「お陰様の心」で助け合ってきたと思います。さらには「天地の恩」ともあるように、自然のもたらす恵みによって生かされている、という感謝の気持ちを込めた自然観でもありました。

オイスカは1980年代より地球環境問題に取り組んできました。それは、日本はもとより、アジア地域でも経済成長優先で自然環境が破壊され、人びとの生命をも脅かすようになったからです。先述したように、自然に対しても畏敬の念や謙虚さを持っていた日本人ですが、今や、地方へ一歩足を踏み入れますと、山に、田畑に、空き地にと太陽光パネルが設置されています。地球温暖化を防ぐために再生可能エネルギーが必要なことは理解できますが、そこには先人たちが感謝の念とともに大切に守り育ててきた森林に対する思いは感じられません。私たちはここで少し立ち止まって、「生かされて生きる」という、先人たちが大事にしていた精神を改めて考えるときではないでしょうか。



OISCA MARCH 2023 | 3 Contents

- 04 OISCA NEWS 海外／国内
- 06 オイスカ便り オイスカ浜松国際高等学校
- 08 TOPIC 災害大国ニッポンで命を守る防災を学ぶ
- 12 OISCA SQUARE オイスカ歴史さんぽ／OISCAレストラン／お！ススめOISCA
- 14 INFORMATION ボランティア募集 ほか

What's OISCA

オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に創立された国際NGOです。現在、41の国と地域にネットワークを持って活動しています。

公益財団法人オイスカは、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開。特に人材育成に力を入れ、オイスカの研修を修了した現地の青年は、各地で地域開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通して啓発活動を積極的に進めています。

OISCAという名称の意味

O rganization 機構
I ndustrial 産業
S piritual 精神
C ultural 文化
A dvancement 促進

人間の生存に不可欠な“産業・精神・文化”のバランスを大事にした発展を世界規模で推進していくことを目的として、このように名付けられました。

国内「海岸林再生プロジェクト」 高校生・大学生海岸林リーダー誕生 ボランティアによる本数調整伐も

宮城県名取市で進む「海岸林再生プロジェクト」では、

将来にわたって海岸林を守り育てる地元の若者の育成を目指し、アイベックスエアライズ株式会社との共催で、宮城県内の高校生・大学生を対象にした読書感想文コンクールを開催。コンクールで入賞した4名を海岸林リーダー（以下、リーダー）に任命しました。彼らにはさまざまな学びを得ながら、同世代の若者たちへの発信などに取り組んで

もらっています。

2022年12月9～11日、

リーダー一行は、将来必要となる名取市の海岸林の保全について学ぶため、福岡県と佐賀県の海岸林を訪問。福岡の生の松原では、大きく育った海岸林を視察したほか、佐賀の虹の松原では、日頃から保全活動に参加している県立唐津南高校の生徒らと共に、除伐作業を体験しました。

松葉を使ったサイダーや化粧品などの開発、販売に携わっている生徒から話を聞いたリーダーの和泉壮汰さん（大学3年生）は、「名取でのボランティアでは草取りや溝切りなどをして、クロマツの保育管理作業をしてきたので、クロマツは守るものと思っていたが、ここでは活用する段階になっていて驚いた」と話し、熱心に質問をしながら情報を集めていました。また、虹の松原の保全推進団体であるNPO法人唐津環境防災推進機構K A N N Eの藤田和歌子理事長から、同地での活動内容や現在抱えている課題などについてレクチャーを受け、あらためて海岸林の役割や保全活動の重要性を認識した様子でした。

また、23年1月

21日には、ボランティアによる本数調整伐（間伐）が4名の指導員の下で行われ、普段から活動に参加している地元のボランティアリピーターに交じり、活動するリーダーの姿も見られました。プロジェクトで

は、昨年度から本数調整伐を始めたが、ボランティアの手で実施するのは今回が初めて。参加者は、作業前に佐々木廣一統括による講習を受け、本数調整伐の目的や、伐採の方法、安全管理などについて学びました。今回伐採を行ったのは15年の植栽地で、胸高直径（地面から約120cmのところ）が10cmほどに成長したクロマツ。作業に慣れたボランティアメンバーが多く、切り倒す作業はスムーズでしたが、5mにも成長したクロマツは重さが20kg以上になっているものもあり、林外に運び出す作業に苦労する姿が見られました。長年ボランティアに参加して、クロマツが順調に育つように世話を

続けてきたメンバーからは、「強い海岸林を育てるためと、目的はわかっているけど、やっぱり切るのはいそがしい」といった声も聞かれました。この日の夕方には、リーダーによる活動報告会が仙台空港で開かれ、本数調整伐に参加したボランティアのほか、アイベックスエアラインズ社員や読書感想文コンクール参加者ら約30名が、会場、またオンラインで聴講しました。今回の報告会では、九州地域の海岸林での体験を通じた学びや、今後取り組んでいきたいことなどをそれぞれが発表し、若者世代を代表する海岸林リーダーとして、これからも名取の海岸林を守っていくことを宣言しました。



マツクイムシ対策もあり、伐採したマツはすべて林外に運び出す。切りたての生木はぐずぐずと重く、かなりの重労働となる



上／海岸林リーダーによる報告会。ボランティアに参加したメンバーも作業着に長靴のまま会場に駆けつけた

下／海岸林リーダーは、佐賀県の虹の松原で、地元の高校生らと除伐を体験（12月10日）





海外 オイスカ・タイ総局

天然資源環境委員会より表彰 長年にわたる植林活動が評価される

オイスカ・タイ総局では、1980年にスタートした東北タイでの植林を皮切りに、日本の支援者からのサポートを受けながら、山岳地域や海岸部での森づくりを続けてきました。92年から始まった「子供の森」計画参加校での植林を含め、これまでに約2500haの実績があり、近年では、育ててきた森の恵みを活用しながら、地域住民の生

計向上を目指す取り組みにも注力しています。

こうした長年にわたる植林活動が、「よりよい環境および社会の構築、また持続可能な開発への大きな貢献」であるとして高く評価され、22年12月8日、タイ王国の国会において表彰されました。天然資源環境委員会のスラサック・カンチャラット会長から記念の盾を受け取った総局のアリ・



授賞式で盾を受け取るアリ会長(右から2人目)

チョアングリア会長は、「国家を代表する環境保全活動に取り組む団体として認められたことは大変名誉なこと」と話し、これまで活動に従事してきたスタッフや、植林を共に進めてきた支援者らに謝意を表しました。

海外 パプアニューギニア・ラバウル研修センター

荏原美知勝駐在代表が 在外公館長表彰を受賞

23年1月4日、パプアニューギニアの荏原美知勝駐在代表が在パプアニューギニア日本大使館において在外公館長表彰を受けました。同表彰は、日本と諸外国・地域との相互理解や友好親善の促進に寄与した個人や団体に対する顕彰で、この日は、渡邊信之駐パプアニューギニア日本国特命全権大使より表彰状が授与されました。

荏原駐在代表は、1993

年にオイスカ・ラバウルエコテック研修センターに赴任。

有機農業の普及や稲作の技術向上などに努め、04年からは技術顧問および駐在代表として活動が続けてきたほか、熱帯雨林保全活動にも取り組んでいます。

今回の表彰を受け、荏原駐在代表は「長年のオイスカでの活動が評価されたことをう



本来であれば1月中旬に行われる予定だった表彰式が、荏原駐在代表(中央)の滞任期間に合わせて開かれ、渡邊大使(右から3人目)はじめ皆さんに祝っていただく

れしく思う。これからもしっかりと取り組んでいきたい」と喜びを語りました。

国内 オイスカ4センター支援連携サミット

OBとの連携強化を目指した意見交換 カンボジア・モンゴルからの事例発表も

23年1月28日、オイスカ西日本研修センターで、「日本で学んだ海外研修生のSDGsへの貢献」をテーマに、訪日研修生OBによる活動事例発表会が行われました。西日本支部会員や地域で活動を支えてくださっている方々など、約150名が集まり、センター卒業後に母国で活躍するOBたちの取り組みや現地で抱える課題などに関する発表に耳を傾けました。

この発表会は、オイスカ4センター支援連携サミットの公開プログラムとして実施されたもので、今回はカンボジアとモンゴルからそれぞれ現地オイスカ活動を支援している訪日研修生OBを招聘。また、ミャンマーからは動画での報告がなされました。

16年から1年間の、西日本研修センターで学んだモンゴルのザグダさんは、農業研究員としてウムヌゴビ県ダランザドゴド市のアグロパークに勤務しており、厳しい環境のゴビ砂漠での農業開発に従事しています。気候変動の影響や、



研修生も壇上で自己紹介。帰国を前に、母国で活躍する先輩の話を聞き、刺激になった様子



浜名湖畔の自然豊かな環境にある学び舎

オイスカ 便り

全国の支部や支援組織を
ピックアップして紹介します

今回は

オイスカ浜松
国際高等学校

浜松を学びの舞台とした 地域密着型の国際高等学校を目指して

本校は1983年4月に開校し、本年度で満40周年を迎える全日制普通科の高等学校です。開校以来、オイスカ・インターナショナルの理念のもと、「国際理解教育」と「環境

教育」を柱としてきました。2022年4月より「オイスカ浜松国際高等学校」に校名を変更、「オイスカ」の理念のもと「浜松」を学びの舞台とした「国際高等学校」としての学校づくりをスタートしました。

新たなスクールミッションは、持続可能な多文化共生社会の実現に貢献する生徒を育てることです。具体的な教育方針として、SDGsに紐づけた全ての教育活動を「オイスカSDGs教育」とし、3つの宣言「環境教育宣言!」「ミニ・ワールド宣言!」「地域協働宣言!」を掲げました。これらの教育方針のもとで実践している諸活動が外部より評価されて、表彰される機会が増えてきました。特に本年度は、「近況レポート」で報



国内外からの生徒たちのための寮も完備。ランチは食堂でクラスの間と一緒に。ドイツの留学生を囲んで

環として顕著な功績のあった個人・団体を称える「気候変動アクション環境大臣表彰」の「気候変動アクション大賞（普及・促進部門／緩和・適応分野の最優秀賞）」をいただきました。これらの受賞を励みに、スクールスローガンである「CHALLENGE 本気の挑戦」を合言葉に、さらに充実した教育活動を展開していきたいと考えています。



オイスカ浜松国際高等学校
校長

鬼石 貞治

学校概要

前身である中野学園天文地学専門学校の高等課程を引き継ぎ、1983年に現在の静岡県浜松市西区和地町に「オイスカ高等学校」として開校しました。「自然の恩恵に感謝し、国際社会に貢献できる心豊かな生徒を育成する」という教育目標のもと、全日制普通科の高等学校としてスタートし、本年度で満40周年。2022年4月に「オイスカ浜松国際高等学校」に校名変更し、日本をはじめとする多様な国籍の生徒が集う国際高等学校として教育活動を展開しています。23年4月より通信制協力校「オイスカ夢未来高等学院浜松校」を開校予定。〈ホームページ〉<https://www.oisca.ed.jp>

うなぎ、みかん、
ピアノ!

近況

REPORT

「オイスカSDGs教育」のさらなる発展に向けて

本校の教育方針である「オイスカSDGs教育」3つの宣言「環境教育宣言」「ミニ・ワールド宣言」「地域協働宣言」に基づく生徒の代表的な活動を紹介いたします。

①環境教育宣言！

任意団体「環境SDGsプロジェクトチーム」の活動です。特に環境保全に取り組む「浜と松プロジェクト」活動は、「浜」は中田島砂丘の保全、「松」は浜松市木である松の海岸林保全を表し、その活動



中田島砂丘で堆砂垣を設置。行政や企業、市民団体、周辺学校などと協働する地域活動へと発展中

は、堆砂垣の設置や飛砂状況の調査、防潮堤への植栽、カワハシミヨウ等の生態観察、松葉の堆肥を活用した野菜作りなど多岐にわたります。環境問題の解決に向けた実践力を養い、地域社会の担い手となる生徒の育成に寄与しています。

②ミニ・ワールド宣言！

国際交流委員会が定期的の主催する校内イベント「ワールド・フェスタ」です。委員会メンバーが、共に生活する留学生や海外にルーツを持つ生徒から学んだ文化や習慣を、掲示や放送を使って紹介し、昼食時にはその国の料理を全校生徒でいただきます。「ワールド・フェスタ」が始まると、学校全体が異国の雰囲気になります。



昨年12月にはドイツをテーマに「ワールド・フェスタ」を開催。ヨーロッパのクリスマスの雰囲気を味わう

③地域協働宣言！

地域の企業と共同で行う「ゴマを食べてごまんどく」プロジェクトです。創業150年の老舗油店「村松製油所」からの、高校生と一緒に浜松産のゴマで胡麻油を作りたいというお声掛けで実現しました。2年生がゴマの栽培実験を行い、収穫ができることを確認。来年度以降、ゴマの収量を増やしながら、浜松産のゴマを使った商品の販売実現に向けて、取り組んでいきます。

生徒が自ら学ぶ探究的な活動を通して、これからの社会に必要な素養を身につけられる環境を整えていきたいと思っています。



生徒が既存商品のネーミングを考え、販売も実施

「浜松城」と「どうする家康 浜松 大河ドラマ館」

今年のNHK大河ドラマは「どうする家康」。浜松は、徳川家康が青年期の17年間を過ごし、天下統一の足掛かりとした地です。その拠点である「浜松城」は、家康をはじめとする歴代城主の多くが江戸幕府の重鎮に出世したことから「出世城」とも呼ばれています。「どうする家康」の放送にあわせて、浜松城の近くに「どうする家康 浜松 大河ドラマ館」が設置されました。ランドオープンは、ドラマの舞台が浜松に移る時期の3月18日。館内では、ドラマの世界観を紹介するほか、浜松

城を象徴する石垣と共に二の丸御殿をVR（仮想現実）で展示しています。また、葵の御紋を描いた広場はひときわ目を引く作りとなっています。お近くにお越しの際には、ぜひ「浜松城」と「大河ドラマ館」にお立ち寄りください。浜松市のマスコットキャラクター「出世大名 家康くん」が温かく出迎えてくれるかもしれません。

オイスカ浜松国際高等学校 校長 鬼石貞治

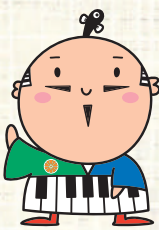
■どうする家康 浜松 大河ドラマ館

浜松市中区元城町102-1

3月18日～2024年1月14日まで

おらが
自慢!

はまち国際高等学校
出世大名
家康くん



浜松は日本一
良いとこじゃ



災害大国ニッポンで 命を守る防災を学ぶ

3月11日が来るたびに「風化させない」と語られる2011年の東日本大震災ですが、戦後最大の被害を出したこの大地震・大津波以降も、日本は毎年自然災害に見舞われ続けています。国土保全や防災体制の整備などをいくら国が進めても、すべての被害をなくせるわけではありません。いざという時、自分の命を守るのは、自分自身の備えと行動です。災害大国ニッポンの現在の状況と、今、一人ひとりにできる防災についてお伝えします。

オイスカが取り組む 防災・減災

オイスカでは、1980年から各国で植林活動に取り組んできました。当初は、その地に暮らす住民の生活がより豊かになること、また持続可能な農業が可能になることを目指していました。近年では、EBS (Eco-System based Solution / 自然を守り育み、その力を活用した取り組み) や Eco-DRR (Ecosystem-based Disaster Risk Reduction / 森林など生態系を活用した防災・減災) といった考え方を基本においた取り組みにシフトしてきています。これは、頻発かつ巨大化する台風や豪雨

などの自然災害、また日常的に迫りくる海岸浸食や高潮などの被害から人々の生活を守ることが狙いです。

例えば、国内では東日本大震災後、津波で流された海岸林の再生に取り組んでいます。これは、日常的に海から吹く塩分や砂を含んだ風から内陸の田畑や家屋、人々の生活そのものを守るためのプロジェクトとなっています。

オイスカの海外の主な活動地に目を転じると、フィリピンやインドネシアのように世界の中でも自然災害の発生頻度が高い上に、そのリスクに対して脆弱な国が多く存在しています。防災・減災を意識した取り組みには、今後ますます力を入れてい

く必要があり、災害の多い日本の事例から学んでもらえることも多くあると考えています。

日本人の防災意識は？

日本政府が発行した令和4年度版『防災白書』の特集テーマは「大規模災害から命を守るために」です。

近年相次いで発生している自然災害に対応する中で、「命を守る」ことの重要性が再認識されたとの報告がなされています。災害で家や土地などの財産を失うことも大きな損失であり、なんとか被害を抑えたいものです。しかし、かけがえのない命を守ることが最も優先されるべきであり、



貧困層が自然災害の被害を受けると負の連鎖から抜けられないことも。開発途上国における防災・減災は貧困層の生活を守ることにもつながっている (フィリピン/2013年)

そのために必要なこととして、住民による適切な避難行動とそれを可能とする防災情報の提供、災害発生後の迅速な人命救助、災害関連死を生じさせないための避難所の環境改善などが挙げられています。

まず求められるのは、「住民による適切な避難行動」ですが、実際に災害に直面した際、私たちは「適切な避難行動」をとれるのでしょうか。多くの自治体で、洪水などの自然災害時に想定される被災区域や被害の程度、避難場所などを示したハザードマップを作成しています。しかしながら、内閣府の世論調査によると、その存在さえも知らない人や、知っていても見たことがない人が多く、地域の防災訓練への参加や見学をしたことがない、あるいは行われていることを知らないといった人も過半数を超えている状況です。

大規模災害から 命を守るために

次ページで紹介する、防災士として活動されている i c o.さんは、

「備蓄も災害食も、備えているのは大変素晴らしいこと」としつつ、何よりも大事なのは「まず生き残ること」とのメッセージを発信しています。東日本大震災の津波で自宅が流されたという i.c.o.さんは、備蓄品もすべて流され、使えなかったそうです。その経験から、「備蓄はいざという時に活用できるとは限らない。活用できたらラッキー。非常用持ち出し袋もまたしかり」といいます。備蓄品が使えないとき、また自宅ではない場所で被災した時のために「防災ポーチ」の携帯を勧めています。10 ページにイラストを掲載しています。「生き残るため」に、誰にでもすぐに用意できるものとして、参考にしてみてください。

災害別・場所別の対策を知る

i.c.o.さんが発信しているメッセージの中に、「生き残る」ためのイメージトレーニングを！ というものがあります。そのために必要なことは、災害別に想定される被害や、被災した場所ととるべき行動を知っておくことです。

ここでは、首相官邸ホームページにまとめられた「防災の手引き～いろんな災害を知って備えよう～」から、災害別の対策をピックアップしてご紹介します。

竜巻の場合

竜巻は、発達した積乱雲に伴う強い上昇気流によって発生しますが、積乱雲は台風や寒冷前線、低気圧などの気象条件で発生しやすくなります。日本では、季節を問わず全国で発生していますが、特に台風シーズンの9・10月は発生確認数が多くなります。

こんな兆候に注意

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする
- ひやっとした冷たい風が吹き出す
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す

積乱雲が近づいているこうした兆しと合わせ、気象庁が発表する竜巻注意情報も参考にしてください。

とるべき行動

- 屋外の場合
 - 近くの頑丈な建物に避難。または頑丈な構造物の物陰に身を隠す
 - 水路などのくぼんだところに身を伏せて両腕で頭や首を守る

物置や車庫、プレハブ（仮設建築物）の中は危険！

- 一般の住宅の場合
 - 雨戸、窓やカーテンを閉め、1 階の窓のない部屋に避難
 - 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る

大きなガラス窓の下や周囲は危険！

ここで紹介したのは一例です。

防災を難しくとらえず、日頃から「この道で地震に遭遇したらこんな危険がある」など、イメージをしておくことや、地下鉄や他の交通機関、各種施設利用時に、災害時の対応を説明した資料などに目を通しておくことも有効です。

自宅周辺のハザードマップを確認しながら散歩をするなど、上手に日常に取り入れてみてください。

首相官邸ホームページ

「防災の手引き～いろんな災害を知って備えよう～」
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/index.html>

地震の場合

今後発生が予想されている首都直下地震や南海トラフ巨大地震などでは、津波被害のほか、大都市特有の被害も多く発生すると考えられています。ここでは都市部でのケースを紹介します。こうした被害に巻き込まれないようにするためにはどうしたらいいか、あるいは直面した時にどう対処するかをイメージしてみてください。

発生が予想されること

■ 建物の倒壊
古いビルや家屋が崩れ、生き埋めになる。外壁や窓ガラスが割れて落下し、けがをする。

■ 通信障害
通話の集中や通信設備の被災などで電話やインターネットが不通となる。あるいはつながりにくくなる。

■ 渋滞 & 道路の寸断
建物の倒壊や自動車の集中で大渋滞が発生し、避難が困難に。土砂崩れなどによる道路の寸断も発生。

■ 電車が動かない
線路の寸断や安全確認のために時間を要し、電車の運行見合わせ。あるいは運休。

そのほかにも、停電、都市ガスの停止、断水などが発生し、復旧に時間がかかると、通常の生活が送れない事態も考えられます。

とるべき行動

- 大規模店舗など集客施設にいる場合
 - その場で頭を保護し、揺れに備えて安全な姿勢をとる
 - 吊り下がっている照明などの下から退避する
 - 出口や階段に殺到しない
- 施設の係員や従業員などの指示に従って避難を！

- エレベーターに乗っているとき
 - 最寄りの階で停止させて、すぐに降りる
 - すべての行先階ボタンを押すことが推奨されています

- 屋外にいるとき
 - ブロック塀や自動販売機のそばから離れる
 - ビルの壁や窓ガラス、看板などの落下に注意して、建物から離れる

- 自動車を運転しているとき
 - 急ハンドルや急ブレーキをかけず緩やかに速度を落とす
 - ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促し、道路の左側に停止する

「生き残る」ための備えとは



オイスカが宮城県名取市で進めている「海岸林再生プロジェクト」の広報用イラストなどを手掛けてくださっているイラストレーターico.さんは、名取市で最も津波の被害の大きかった閑上地区のご出身。自宅が流される被害に遭いながらも、自身のイラストの売り上げなどからプロジェクトに支援を続けてくださいました。

また2019年の東日本台風で再び水害に見舞われたico.さんは、現在防災士としてさまざまな活動を展開されています。その一つが、防災知識や被災者の体験談などをイラストやマンガ、デザイン作品にして発信する「防災ポーチフォリオ」。

※防災士とは
特定非営利活動法人日本防災士機構が認証する資格
「自助」「共助」「協働」を原則として、社会のさまざまな場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得した人が取得できる。



「海岸林再生プロジェクト」のパンフレットなど、広報用ツールに使われた多くのイラストはico.さんが手掛けたもの

「もしものお守り」防災ポーチ

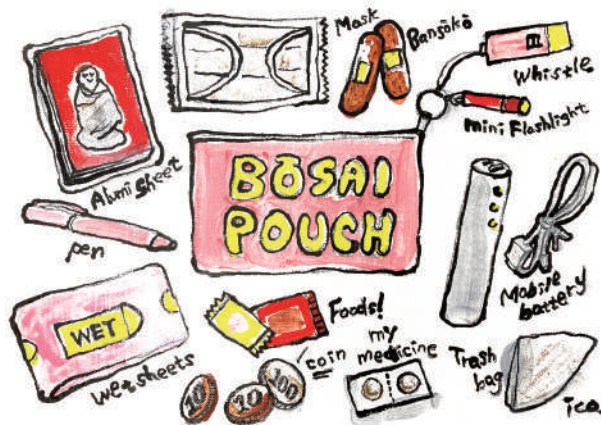
家庭で用意している非常用持出袋。災害時に持ち出せば一番良いのですが、どこで被災するか分からないのが現実です。外出先や勤務中、通勤通学中に被災した時、その時持っている物だけで数日間過ごすといった最悪の事態もあり得るのです。

ここではそんな時、持っていたら便利であろう物・命が助かるかもしれない物をご紹介します。「防災ポーチ」を作ってまとめてin、常に持ち歩けると「もしものお守り」になりそうです。

詳細はこちら



左上からマスク、絆創膏、防災笛、ミニ懐中電灯、モバイルバッテリー、レジ袋、常備薬、食べ物、小銭、ウェットシート、ペン、アルミシート



ico.さんに
聞きました!

ico.さんの防災イラストは、いつも女性ならではの視点に共感します。イラストレーターとしてのお仕事でも女性を多く扱っていますよね。作品作りや防災士としての取り組みの中で、女性として、また母親として意識していることはありますか。

私の周りの女性たちは、何か大変なことがあっても我慢したり気丈に振る舞う人が多いんです。強いし、カッコいいなと思う反面、自分には出来ないから、女性ってこんなこと大変よ。女性ってこうよ」と、女性だからこそ分る部分を伝えようと思っています。代弁者と言ったらおかしですが、私が言うというより、イラストに言わせているイメージです。例えば、避難所では生理用品や下着の配布は女性にしてもらいたいとか、更衣室や授乳スペースは必須だとか。出産をしてみても分かったのですが、母子は夜中もずっと授乳してるし、泣いてます。これを災害時に避難所でやるのか?と思うと、設備や周りの理解、手助けはまだ十分ではないと感じました。

お嬢さんが生まれてからのことを描いたイラスト展「腰抜かしてる場合じゃない」は、タイトルからもico.さんの思いが伝わってきました。「空振り生活」も秀逸ですね。防災イラストレーターとしての精力的な活動や、湧き出てくるアイデアの源はなんでしょうか。

私は、何か(防災や海岸林など)を伝えるツールとしてイラストがあるとと思っているので、「伝えたい!」と思える何かに出会う度に、やる気スイッチが入る感じです。出会いがないと本当に何も描きません(笑)。だから伝わらないと意味がないので、なる

愛知県岡崎市に
あった中部日本
研修センターにて



1970年代



2022年

歴史さんぽ

Vol.5

母国、仲間の国への敬意を示す
朝の日課 国旗掲揚

国内外問わず、オイスカの研修センターでは毎朝国旗を掲揚する行事を行います。滞在するすべての研修生の国の旗と共に、オイスカ旗も掲げます。

特に日本国内で学ぶ訪日研修生は、国を代表しているとの自覚を持ち、日々母国への思いを胸に、冬の寒さの中でも背筋を伸ばし、国旗を掲揚しています。国旗を扱う際は白手袋をし、帽子をかぶるのは今も昔も変わりませんが、昔の写真を見ると、ジャケットを羽織り、正装していることがわかります。現在は、国旗掲揚後にそのままラジオ体操やジョギングも行うため、ジャージーなど動きやすい服装で行っています。リーダーの号令に合わせ、キ

ピキピとした動きで国旗を掲げる研修生の姿があるのは、今も昔も変わらないオイスカの朝の風景です。

夕方は国旗掲揚と同じように白手袋に帽子姿で国旗降納を行います。急に天候が変わり、雨が降ってきた時にはみんなで一斉に国旗台めがけて走り、国旗が濡れないように大急ぎで降ろしてくることも。

シンプルなデザインの日本の国旗と違い、鳥や建物、道具など複雑な図柄が描かれた国旗もあれば、上下反対に掲げると戦いを意味する国旗もあります。オイスカの研修センターにお越しの際は、各国の国旗にも目を向けてみてください。

写真から伝わる
さまざまな思いに
フォーカス！





防災備蓄品をさらにおいしく！
\\ カンパンピザ //

オイスカの研修センターに大量にある防災備蓄品。カンパンは期限が切れる前、研修生のおやつに出すこともあります。初めのうちは喜んで食べていても、毎日続くと誰も手を出してくれなくなります。そこで、おいしく食べ切ってもらおうと作ったのが「カンパンピザ」。

作り方は簡単。1缶分のカンパン（今回使ったものは35粒入っていました！）をすり鉢（なければビニール袋に入れて、硬いものでつぶします）で粉状にして、牛乳60mlを少しずつ加えます。卵1個を入れ、しっとりとしたペースト状に仕上げます。油を塗ったアルミホイルにこれを薄く広げて、オーブ

ントースターで約10分焼いたら生地は完成です。ここにピザソース（なければケチャップでOK。具材によってはマヨネーズも合います）を塗り、好きな具をのせて5分ほど焼いたらできあがり！今回は備蓄品の魚肉ソーセージとミニトマト、ゆで卵とチーズのシンプルなピザに。

「カンパン、減らないのよね～」という方、ぜひお試しください。



WHISTLE

お！ススメ
OISCA

非常用呼子笛

販売元 ダイソー／110円（税込）

国内外のオイスカスタッフから、さまざまなジャンルの「オススメ」をご紹介します！



10ページで紹介した防災ポーチのアイテムの一つ。ico.さんのイラスト展で防災ポーチを知り、何年も前に献血のお礼の品としてもらい机の引き出しで眠っている防災笛の存在を思い出しました。しかし、音は出るもののちょっと心もとない。ということで、100円ショップで探したのがこちら。小学生がランドセルにつけている防犯ブザーのように、備えておけば、小さな安心につながるかもしれません。（本部H）

「海岸林再生プロジェクト」ボランティア募集

今年も「海岸林再生プロジェクト」では、全国からボランティアを募集します。

海岸に植えられたクロマツが順調に育つよう、梅雨入り前には、排水を促すための溝を掘る作業を、また夏場にはクロマツに絡みつ়くクズの刈り取り作業をお手伝いいただきます。

初めての方も大歓迎！ 皆さんのご参加をお待ちしています。

■日程

5月13日／6月24日
7月8日／7月29日
8月5日／8月26日
9月2日／9月16日
10月14日／11月4日
11月18日 ※いずれも土曜日

■時間 9時～17時

■定員 各回50名



クロマツに絡みつ়くクズを刈り取る

■集合場所

宮城県名取市下増田北原東
478 オイスカ名取事務所
参加費 無料

持ち物、申し込み方法などの詳細は、こちらからご確認ください



<https://oisca.org/kaiganrin/2022/12/15/volunteer/>

！読者プレゼント！

タイ マングロープの恵み 手づくり石けん

タイ・ラノーン県で、日本の外務省のNGO連携無償資金協力を得て展開中のプロジェクトでは、マングロープの保全活動に加え、地域住民の生計向上のためのさまざまな取り組みが進められています。大きく育ったマングロープ林そのものを観光資源とした、エコツアーが実施できるようになり、マングロープ林を活用した産品などが現地を訪れる観光客にも喜ばれています。

その中の一つが、自然由来の原材料でつくった「マングロープとハーブの手づくり石けん」です。ほんのりやさしい香りの石けん、ぜひお試しください。3名の方にプレゼントします。



■応募方法／はがきかメールに住所、氏名、電話番号、今号の感想、「3月号読者プレゼント」を明記の上、左の宛先までお送りください。3月末日締切りです。

〒168-0063

東京都杉並区和泉2-17-5

公益財団法人オイスカ

「OISCA」編集部

E-mail: oisca@oisca.org

5月にはプロジェクトを展開している4つの村から、代表者ら16名が来日し、「海岸林再生プロジェクト」が進む宮城県名取市での視察研修に参加します。5月13日には、ボランティアの皆さんと一緒にプロジェクトで汗を流すほか、市内の漁港や水産加工会社などを訪れ、学びを深める予定です。

5月16日には、東京で活動報告会を開催。オンラインでの参加も可能です。詳細は5月号にてお知らせします。

Business Based Solution! Vol.5

オイスカとのパートナーシップでさまざまな社会課題解決を目指すビジネスパーソンにインタビュー

お客さまへ“安心・安全”というおもてなしを

ホテルオークラ福岡 取締役総料理長 谷内雅夫



——オイスカと連携した社会課題解決について教えてください

食への安心・安全に目を向け、地産地消を考えた頃に出会ったのがオイスカ西日本研修センターの無農薬の農作物でした。手始めにブルーベリーをタルトやジャムに、いちじくをロールケーキなどに使用。自然味あふれる甘さは好評で、次第にさまざまな野菜もお料理に取り入れるようになりました。無農薬のため虫が食った部分を取るなど、調理までのプロセスにひと手間かかることもありますが、食材を大切に心が育まれます。カブは皮までもがおいしく、オイスカのカブを使用する前提でメニューを作ることもあります。食材を無駄にせず、美味しい料理を提供することはサステナブルであり、料理人にとって理想的だと感じています。また、スタッフがオイスカで、収穫や出荷の作業に参加することもあります。どのように野菜が育ち、どのように収穫するのかを学ぶことで、生産者の方の苦勞を知り、食材に対する知識

も培われる良い機会だと思っています。

——今後の展望についてお聞かせください

昨年、学生向けのテーブルマナー講習の中で、コーンスープを提供し、原料であるオイスカのトウモロコシ栽培の様子を動画で見てもらいました。自分の食べるものがどのように作られているかを知り、生産者の方への敬意を持ち、食物の大切さを学ぶ機会としてもらいました。このような活動を通じて、地産地消の良さをホテル内にとどまらず広げていきたいと考えています。本来の野菜の味を味わうという贅沢な体験、そして料理に対する創造性の育成などを含めて次の世代へも継承していきたいと思ひます。

【会社概要】

ホテルオークラグループのホテルとして1999年に開業したホテルオークラ福岡は、264室の客室と大小13の宴会場、8店舗のレストランを運営。「親切と和」を企業理念とし、お客様へ心からのおもてなしで、極上のひとときをお届けします。

ご支援ありがとうございます！

新会員の紹介

新しく会員になられた方は次の通り。
(2022年11月1日～2023年1月1日までの間、本部登録済分。順不同、敬称略)

■維持法人

【北海道】株式会社北海道銀行【茨城県】社会福祉法人仁心会【東京都】ユタカ電子株式会社【静岡県】株式会社川嶋【富山県】株式会社島田木材【愛知県】株式会社コスモ／えず株式会社／N-T都市開発株式会社【東海支店】香川県協和化学工業株式会社【福岡県】倉松酒販株式会社

■維持個人

【埼玉県】樋泉克夫／南雲孝雄【静岡県】足立渉【愛知県】小久井正秋【香川県】大浦まゆみ【佐賀県】富田幸樹／中村圭一／ノ瀬裕子／古賀陽三／田中秀和／古川裕紀／川崎常博／弘川貴紀【福岡県】柴田喜八郎／野中国保

寄附

2022年12月1日～2023年1月19日までにいただいた寄附は次の通り。(順不同、敬称略)

●株式会社プロネクス／啓発普及事業に188万7000円

●日立物流まごころ基金および日立物流グループ／「子供の森」計画に120万円

●コニカミノルタ労働組合／「子供の森」計画に60万円

●株式会社三井不動産ホテルマネジメント／「海岸林再生プロジェクト」に24万6000円

●仙台トヨベット株式会社／「海岸林再生プロジェクト」に15万8090円

●大豊工業株式会社／人材育成事業に12万3659円

●四国電力総連／啓発普及事業に10万円

●オイスカ三重推進協議会／人材育成事業に10万円

●株式会社天狗堂／「子供の森」計画と人材育成事業に合せて20万9478円

●加藤みつ子(愛知県)／人材育成事業に10万円

●西尾自動車学校／人材育成事業に27万6261円

●ライフ労働組合／「海岸林再生プロジェクト」に21万9048円

●丸真株式会社／「子供の森」計画に20万1222円

●社会福祉法人西日本新聞民生事業団／人材育成事業に16万円

●東京電力労働組合／「子供の森」計画に15万円

●トヨタモビリティパーツ株式会社九州北部統括支社／人材育成事業に12万6480円

●天間特殊製紙株式会社／啓発普及事業に11万2411円

●山本哥子(福岡県)／人材育成事業に10万円

●株式会社札幌リテン／啓発普及事業に10万円

●中武喜久代(宮崎県)／人材育成事業に10万円

●オイスカ高松推進協議会／啓発普及事業に10万円

●CKD株式会社／「海岸林再生プロジェクト」に15万2141円

2022年度 オイスカ冬募金

2022年12月1日～2023年1月31日までに「2022オイスカ冬募金」にいただいた寄附(10万円以上)は次の通り。(順不同、敬称略)

●株式会社E&C inc.／60万円

●株式会社大江鐵工／50万円

●鈴木大崇(愛知県)／17万円

●株式会社村金／10万円

●梅本由紀子(富山県)／10万円

●根本守(福島県)／10万円

●神野春光(愛知県)／10万円

●松井徳之進(静岡県)／10万円

●四日市電機株式会社／10万円

今月の表紙写真

Photo by Arisa Kuramoto



「海岸林再生プロジェクト」で進む本数調整伐(間伐)。刃物や伐採木によるケガのないよう、安全管理に気を配っての活動となる。松葉が目には刺さる事故には、シールド付きのヘルメットと、細心の注意が必要。
(宮城県名取市)

次号予告

OISCA
MAY | 5
2023

《TOPIC》

企業が目指す
社会貢献の今(仮)

OISCA 3月号 定価160円
発行人／中野悦子
発行所／公益財団法人オイスカ
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目17番5号
TEL (03) 3322-5161 FAX (03) 3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
編集：OISCA／林久美子 倉本有沙
アートディレクション／土肥幹人
デザイン／土肥幹人 坂巻貴行
印刷・製本／株式会社ケープリント

本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転載を禁じます。



理念

—— 人と育む、地球といきる ——

Vision

実現したい未来

人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、自然と調和して生きる世界

Mission

日々果たすべき使命・存在意義

私たちは、すべてのいのちが健やかに守られるよう、感謝の心を持つ「人」を育み、いのちの土台となる森づくりや、共に助け合う社会づくりに取り組みます

Value

私たちが大切にしていること

- 互いを理解し尊重
- 土から離れない
- 感謝の心を持ち、へこたれない「人」を育む
- 地域に根差し、住民の「良くしたい」を尊重

Spirit

Visionを達成するために、
私たち一人ひとりが
日々実践する心のあり方

- 先を展望する想像力を持つ
- 着実に一歩ずつ積み重ねる
- 仲間とともにチーム力を発揮する
- 挑戦し続ける
- 感謝の心を持つ
- へこたれない
- 経験から学び進化する
- 真摯である
- 人間味にあふれ、楽しみながら！

公益財団法人オイスカ

オイスカは、会員・支援者の皆さまからの会費や寄附金によって運営されています。「公益法人」としての認定を受けているため、所得税・法人税・相続税、また、条例で定められた自治体では住民税も控除対象となります。受領書をお届けしますので、申告の際にご利用ください。

● 特別会員（年額1口） 法人／10万円 個人／5万円

● 維持会員（年額1口） 法人／4万円 個人／2万円

● マンスリーサポーター 個人／月々2,000円～

※特別会員と維持会員には、会員としての差異はなく、口数とともに、自由にお選びください。

※会員、マンスリーサポーターの皆さまには、広報誌「OISCA」をお届けします。

※新入会年度は、入会月によって納入金額が異なります。

● 「子供の森」計画支援金（年額1口） 個人・法人／5,000円

※海外の支援地域の活動案内（年1回）やニュースレター（年2回）をお届けします。

※子どもたちからのグリーティングカード（年1回）が届きます。

ウェブからも支援のお申し込みができます ▶ <https://oisca.org/>

お問い合わせや資料請求のお申し込みは

公益財団法人
オイスカ〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
<https://oisca.org/>

国内研修センター

中部日本研修センター 〒470-0328 愛知県豊田市勤八町勤八27-56 ☎0565-42-1101 ☎0565-42-1103
関西研修センター 〒563-0101 大阪府豊能郡豊能町吉川120 ☎072-738-3699 ☎072-738-3901
四国研修センター 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334
西日本研修センター 〒811-1112 福岡県福岡市早良区小笠木678-1 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

国内支部

北海道支部 〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラルス生活研究センター1F ☎011-867-9684 ☎011-867-9685
宮城県支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎022-265-3350
首都圏支部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5 (公財) オイスカ内 ☎03-3322-5161 ☎03-3324-7111
山梨県支部 〒400-0016 甲府市武田1-2-5 3F ☎055-267-5951 ☎055-267-5951
長野県支部 〒380-0838 長野市東町584 長野県経営者協会総務部内 ☎026-235-3522 ☎026-235-3529
富山県支部 〒939-2226 富山市下夕林280-3 ☎076-468-7120 ☎076-468-7128
静岡県支部 〒431-1115 浜松市西区和地町5815 ☎053-401-3980 ☎053-401-3981
愛知県支部 〒470-0328 豊田市勤八町勤八27-56 オイスカ中部日本研修センター内 ☎0565-42-1162 ☎0565-42-1103
岐阜県支部 〒503-8603 岐阜県大垣市久徳町100番地 太平洋工業園本社内 ☎0584-47-9420 ☎0584-47-9419
関西支部 〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町4-4-1 新御堂ビル ☎06-6244-2366 ☎06-6244-9422
広島県支部 〒730-0041 広島市中区小町4-33 関エネビルL&B/バートナース内 ☎082-242-7804 ☎082-242-4706
四国支部 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 オイスカ四国研修センター内 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334
西日本支部 〒811-1112 福岡市早良区小笠木678-1 オイスカ西日本研修センター内 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

OISCA NETWORK

福島 〒963-0534 郡山市日和町字大塚50-8 (南根本産業内) ☎024-958-2643 ☎024-958-3741
茨城 〒311-0113 那珂市中台852-9 ☎029-298-2539 ☎029-298-2539
神奈川 〒231-0003 横浜市中区北仲通3-33 関内フューチャーセンター ☎080-5016-2584
三重 〒510-0958 三重県四日市市小吉曾1-1-7 中村建設内 ☎059-345-1101 ☎059-345-0745
奈良 〒630-8444 奈良市今市町53-6 ☎0742-63-6277 ☎0742-63-6277
岡山 〒700-0011 岡山市北区学南町2-6-11 PORTA美容室内 ☎086-252-3027 ☎086-252-3027
徳島 〒770-8555 徳島市寺島本町東2-29 四国電力徳島支店総務課内 ☎088-656-4593 ☎088-656-4511
愛媛 〒790-0924 松山市南久米町乙24-84 ☎070-8524-0349 ☎089-948-8682
高知 〒780-0870 高知市本町1-6-24 高知商工会議所総務企画部内 ☎088-875-1177 ☎088-873-0572
佐賀 〒840-0826 佐賀市白川2-1-12-4F ☎0952-28-1368 ☎0952-28-1368
長崎 〒858-0908 佐世保市光町109 関内組内 ☎0956-47-2127 ☎0956-48-5069
熊本 〒865-0055 玉名市大浜町2173-1 丸光グループ本社内 ☎0968-76-2161 ☎0968-76-2162
大分 〒870-0002 大分市浜の市1-3-7 榎大地企画内 ☎097-533-2101 ☎097-533-5040
宮崎 〒880-0843 宮崎市下原町227-6 ☎0985-26-5673 ☎0985-26-5673
鹿児島 〒892-0817 鹿児島市小川町15-1 (南日本総合サービス内) ☎099-224-3833
沖縄 〒902-0077 沖縄県那覇市長田2-12-9 セレクション長田101 ☎098-943-2871 ☎098-943-2881